

はじめに

みなさんは、「縄文文化」を知っていますか。

今から1万年以上も前に、北海道を含む日本列島に住んでいた私たちの祖先である縄文人が、自分たちの周りの自然を活かしながら生活を営み、そして作り上げた文化です。

この本に登場する「カックウ」こと函館市にある国宝の中空土偶は、その縄文人が作った造形であり、芸術性の高さも感じます。

縄文人から私たちへのすばらしい贈り物とも言える「カックウ」は、自然とともに生き、家族や仲間の絆も大切にして、1万年以上もの長い間続いた世界にも類のない縄文文化の素晴らしさを、未来の人々にしっかりと伝えてゆくため、長い時を経て私たちの前に姿を現してくれたのではないのでしょうか。

この本では、北の大地で長い間営まれた縄文文化について、中空土偶「カックウ」が道案内役となり、その特徴、代表する出土品や縄文遺跡などを多くの写真とともに、紹介しています。

遺跡の発掘調査で発見された住居跡やお墓、そして多くの土器や石器、さらに土偶など数千年の眠りから覚めた生活の跡やモノたちは多くを語りません。

しかし、それらを考古学という学問の系でつなぎあわせてみると、いろいろなことがわかってきます。

みなさんも、この本を入口に北の縄文世界の扉をたたいてみてください。

きっと、大きな驚きや新しい発見があるに違いありません。

北海道